



【巻頭言】 「Web 会報」発刊に向けて



千葉県支部長
松井隆

「Web 会報」発刊に当り一言ご挨拶申し上げます。

平成 26 年活動の中で、新たに広報委員会からの活動として「Web 会報」発刊を提案し実施されること真に喜びに堪えません。

千葉県支部は、3 年目の活動がスタートしておりますが会報をどうするかかねてから議論していました。この発刊を機に広く会員相互の交流が進められることを期待します。

発刊の目的は、各委員会や活動推進委員会の支援チームの活動をより多くの会員に伝達するとともに、会員からは各種情報をキャッチして相互に情報交換が行われていくところにあると思います。

広報委員会では、運用要領を定めて Web にて迅速に行い、統括本部の同報メールの活用促進を図ること等に配慮し、掲載内容についての制限事項など定めての実施であります。

「Web 会報」の発刊により、多くの会員に支部活動が伝わり、そして各種活動に参加していただき、新たな会員の発掘に繋げることになれば支部の発展に繋がると考えます。

千葉県支部での設置初年度に定めた基本理念は「技術士の技術力とチーム力で、産・学・官との交流・連携を強めて、地域の経済社会の発展並びに科学技術の向上に貢献する」であります。この具体化に向けた活動の行動指針(中期計画)は、今年 3 年目の最終年として達成評価を行うこととなります。

千葉県支部の発展のため、会員の皆様には、ご活躍に邁進されるとともに、支部の諸活動にご参加いただき、絶大なるご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

(千葉県支部長 松井隆)



田島和博

この度、新たに千葉県支部のメンバーに加えていただいた千葉工業大学大学院所属の田島和博と申します、よろしくお願ひいたします。

私が技術の道を選んだきっかけは中学校の技術の授業でラジオ付の懐中電灯を作ったことでした。作ったといっても説明書通りにはんだ付けをして組み立てるだけだったのですが完成し、ライトを点けラジオを聴いた時に、自分が作ったものが普通に売られている製品の様に使えたことがすごくうれしく、感動を覚えました。もともとプラモデルを作るのが好きでものづくりには多少なりとも興味があったのですが、この出来事から明確に技術の道を意識し始めました。

技術士という資格を知ったのは大学のコース選択の時でした。私の卒業した学科には複数のコースがあり、そのうちの一つが JABEE 認定コースでこのコースの説明を聞き、初めて知りました。その際に先生方や大学の技術士会の方々から技術士は国や社会から高度な技術を持った者だと認められ、国際的にも通用する資格であるという説明を受け、将来チャンスがあれば挑戦したいと思いこのコースを選び修習技術者の資格を習得しました。

そして、内定をいただいた ALSOK の選考中に企業内技術士会が発足され、またとないチャンスだと思い技術士に挑戦することを決めました。

私は、現在大学院で独居高齢者の非日常行動検出システムの研究をしており、カメラ画像による行動識別を行っています。日本では年々、少子高齢化が進んでおり家族や親族が高齢者を見守ることが困難となっていることから、孤独死が増え社会的な問題になっています。この研究はそのような問題を解決するためのものであり、やりがいを強く感じています。

今後、技術士を習得して国や社会に貢献できる技術者になることを目指し、実務経験や試験勉強等、努力していきます。

また、資格習得のための勉強だけでなく技術士としての倫理感、人間性なども入社後の業務や技術士会の講習会を通して、磨いていきたいと思ひます。



大島正之

はじめまして。このたび日本技術士会準会員になりました、平成 22 年第一次試験（情報工学部門）に合格した修習技術者の大島正之です。入会と時を前後して新しい職場に就職したばかりでして、新たな生活にもやっと慣れ始めたばかりの忙しい毎日ではありますが、少しでも千葉県支部メンバーの方の力になれるよう頑張りたいと思ひます。

そもそも私ははじめから技術士を目指そうとしていた訳ではありませんでした。というのも大学を卒業した平成 12 年当時、恥ずかしながら「技術士」の存在を存じ上げていなかったからです。知ったきっかけは卒業 1～2 年後頃に見た卒業生会報でした。同学年別学科の知らない方が「一次試験に合格し、いまは二次試験合格を目指している」と書いていました。同じ年度に卒業した方が目標に向かって頑張っているという記述は、日々の業務だけしか見えていなかった当時の私に強く印象に残りました。しかし、実際に技術士を目指すことになったきっかけは更に数年後に起こりました。

卒業して 7～8 年経った当時、勤務先で外注として業務にあたる毎日でしたが、少し視点をずらすと所属企業ごとの学歴差別に直面していました。ある時それを当時の部長補佐の方に直接ぶつけたのですがこう返されました。「もし同じ程度の扱いをされたいのであれば、技術士あるいは技術士一次試験くらいは合格して下さい。これが最低限のラインです。」。

現在の業務は一般の方が利用するサービスの追加開発と検証作業です。多くのユーザー様に喜んでいただける所にやりがいを感じています。技術士資格とは離れた作業領域ではありますが、私のような下にいる人間が技術士を目指して学習し、その道の中で多くの知見を得るための素養を得ることができるのであれば、技術力低下が囁かれる日本の今日の現状に歯止めをかけられるのではないかと、そのように信じて、油断すると落ちがちな志を落とさぬよう日々の業務に邁進していきたいと考えております。



紅谷喜之

昨年機械部門の一次試験に合格し、二次試験に挑戦中です。まだ技術士としての活動はできませんが、勉強は早く始めようと思い、今年から準会員として千葉県支部の行事にも参加しております。

それでは現在の業務と、技術士を目指してきて感じていることなどをお話させていただきます。本来技術士になっての抱負などが期待される欄かと思いますが、どうぞご容赦ください。

私の勤務先での役割は「複写機に関わる機械的現象のシミュレータ開発」です。開発したシミュレータを製品設計プロセスに導入し、設計品質、効率向上に貢献するのが上位の使命です。

シミュレータづくりでは、まず実機の挙動を観察し、現象メカニズムの解明に取り組めます。複写機も中々複雑な機械なのですが、現象に寄与する因子を見つけ、効果を調べていくと、全体では捉えどころがなかったものが、実は線形で表現されるような、いくつかのシンプルな関係の複合とわかることがあります。この理解に達した時は爽快ですし、シミュレータの提供はそれとして、現象メカニズムの判明のほうが、周囲から喜ばれるようです。

こうしたことを通じて、客観的に掲げる目標よりも、それに至る過程で得られるもののほうが、大事ということは少なくないのではないかと時々思いつつ、日々課題に取り組んでいます。

そして技術士についても、当面達成すべきは資格取得ですが、すでに貴重なものを得てきていると感じます。例えば試験勉強を通じて、専門分野を論理的に再習できたり、受験仲間や無償で指導して下さる先輩技術士の方々とめぐり会えたことです。本稿執筆の機会をいただけたのもその一つだと思います。今後も新たなこととの出会いを楽しみながら、目標に向かっていけたらと思います。

最後に私、内房で長年半農半漁を営んでいた家で生まれ育った、生粋の県民です。こうして千葉県支部に迎えていただき、地元之恩返しする道が一つ開け始めたと考えております。一日も早く技術士としてお役に立てることを、目指してまいりたいと思います。



山根孝幸

このたび千葉県支部新メンバーの紹介コーナーに寄稿の機会を与えていただいた山根と申します。まだ一次試験しか合格していませんが、ご挨拶させていただきます。

1. プロフィール

氏名: 山根孝幸 年齢: 49歳

職業: 公務員 公共建築物(電気設備)の設計、監理

部門: 電気電子部門(一次試験合格)

2. 技術士を目指すきっかけ

技術士という資格は若い頃から知ってはいましたが、限られた者しか二次試験の受験資格を満たせないものと諦めていました。ただ、少しでも自信になればと思い一次試験を受験しました。

興味本位だけで参加した合格祝賀会でしたが、技術士会の皆様から刺激や激励をいただいたおかげで勇気が湧き、受験資格に対する心配を払拭できるようになりました。

3. 資格は自覚

技術士を目指すようになって、仕事への取り組む意欲がこれまで以上に高まりました。技術士になった暁に恥ずかしい思いをしたくないからです。

また、技術士の勉強をするまでは技術者倫理ということを知りませんでした。普段の業務においても倫理について意識していくつもりです。このように資格というのは、自覚を持つことなのだと思えるようになりました。そして自分にもいよいよ今まで吸収した知識や経験を社会に向け積極的にアウトプットする時期がきたように思っています。

技術士になることは手段であり、私の目標は人のためになることです。そのためには、まず人として頼られる存在になること。ひとつひとつその期待に応え積み重ねていくことがひいては社会貢献につながるものと信じています。

極論は「生き方」ということだと思います。いかに自分の能力を高め、情熱、勇気を持って生きるかが目標を

達成するために重要かと考えています。

末筆になりますが、技術士会および千葉県支部の益々のご発展を祈念いたしますとともに、これからもご指導のほどよろしく申し上げます。



今瀧博文

今般お仲間に入れていただいた今瀧博文です。30年余り前の大学時代には農業生物学全般を学びました。かつては農学と呼ばれていた分野ですが現在は応用生命科学という随分難しい名前になってしまい、また自分のいた研究室もどれなのか名前だけではよく分かりません。

その当時は植物におけるバイオテクノロジーの黎明期で、今から考えると随分荒っぽいやり方ですが、植物細胞の細胞融合が盛んに報告されていました。そこで卒業後は是非研究の道に進みたいと思い、化学会社で生化学部門の研究所に入りました。ところがそれ程こだわった研究の道なのに、入社4年目には研究所から海外部に異動になってしまい、以後海外展開・技術普及・国内営業・戦略企画等を転々とすることになってしまいました。

技術士を目指したのは、50代半ばになってからです。40代末にそれまで勤めていた会社から今の勤務先に移り、先が見えてきたところで、そろそろ自分の来し方(カッコよく言えば技術体系)を整理してみたいと思ったのがきっかけです。一次試験合格後は技術士会の準会員になって東京での部会に出席するようになりました。

そこで分かったのは、そんな“ご隠居”的な考えではいけないということでした。また定年後も実践分野でバリバリと活躍されている先輩技術士の方がいらっしゃり、大変恥ずかしい思いをしたのを覚えています。更には、会社組織の技術者という気持ちがなかなか抜けなかったのですが、最初に受けた面接試験で、試験官からそこを指摘されたのも強烈な記憶です。勿論その時は見事不合格でした。

思い起こせば、1972年にローマクラブの「成長の限界」が発表されて、人口爆発と農業、それを取り巻く技術に興味を持ったのが始まりです。現在、日本の農業は色々な意味で大きな変革期に来ています。技術士資格は名称独占であり業務独占ではありませんが、果たして自分の技術がどれだけ貢献できるのかを考え、頑張っていきたいと思えます。



松村嘉之

平成 25 年度二次試験で合格し技術士登録しました。現在は企業内技術士として、医薬品工場の生産設備設計および施工の業務に従事しています。

生物工学部門の技術士は、企業内では優遇されることはほとんどないのですが、社内外で生物工学の専門家として認められることで、今後増えていくバイオ技術利用施設建設への貢献が期待されているのを感じています。

日本技術士会には二次試験を受験する前年に準会員として入会しました。修習技術者研修会や部会例会に参加し、正会員の技術士の皆さんのお話を聞くことで、最新の知識が得られたのみならず、皆さんの仲間入りをしたいというモチベーションが大きく高まりました。このおかげで初めての二次試験で合格することができました。

千葉県在住は、2000 年に転勤で千葉市に来てから延べ 15 年目になりました。これまでの社会人生活の大半を過ごし育てて頂いたこの地で、今後は何かのお役に立てればと思っています。千葉県支部では理科教育支援や産官学との連携など、地域貢献に力を入れていると聞いています。企業に所属している間は出来ることに限りがありますが、少しずつでも関わっていければと思います。

本年 5 月に開催された千葉県支部の合格者祝賀会にお招きいただきました。様々な技術分野の専門家と懇談することで、部会での活動とは違う新たな刺激を受けました。千葉県支部の一員として先輩諸氏のご助言を賜りながら、技術士として研鑽を積んでいきたく存じます。よろしく願いいたします。



多田聡一

【自己紹介】

はじめまして、今年 3 月に技術士(建設部門)を合格いたしました。社会へ出てから、総合建設会社を経た後、現在の「新京成電鉄株式会社」に従事し、企業内技術士として登録をしております。

【技術の道に入るきっかけ】小学低学年に「マイキット」なる電子部品工作を親に買ってもらい、これを製作するのが好きでした。これは、ダイオード、トランジスタ、抵抗器、コンデンサ、コイルがパネル固定してあり、自在な配線の組替えにより、ラジオ、インターホン、発信機等、多様な物を作成できました。少数部品の組合せで多機能を作り、部品構造の理解や、完成品が“なぜ”このような現象を生ずるか、好奇心を湧きたてられました。

“もの創り”と“なぜだろう”の時代を繰返し、なぜか土木科の大学を卒業し、建設畑の社会人となり31年が経過いたしました。

【技術士受験のきっかけ】

かなり前から受験し、5 回目ようやく合格を頂きました。おかげ様で、技術士 2 回の制度改定も経験することができました。そのせいか、技術士試験の背景や現在日本が世界へ通用しなければならない、技術制度格差も少しは知ることができました。詳細は文科省ホームページ「今後の技術士制度の在り方に関する論点整理」参照

【今後業務への貢献について】

建設関連を 31 年経験していると、時代の波を感じます。平成初期のバブルや崩壊、リマンショックです。経済の上下の波は建設関連や雇用へも影響を与え、少子高齢や 3K 等より、従事員の平均年齢は上昇し、後継者不足が現状です。しかし、後世に何を残すべきか考えた時、幼少で得た“物創り”と“なぜだろう”の考える力の伝承が、時代の波を乗り越え、また、今後来る波も乗り越える力を創造すると考えます。近隣諸国も同じ経過ですが、波を乗切れない事象もあります。違いは“真の技術”を保有しているか否かです。少しでも貢献できればと思う所存です。早々（進化途上の 54 才でした。）



【技術者への入門】

私の技術者への入門は、測量技術が最初であった。

測量業務に数年経過したころ、社内で新たに設計部を設けることになり、私は開発計画などにも携わっていたことから、設計部に配置替えされ土木設計技術に初めて触れることになる。

このときに、技術士という資格を知った。

【技術士受験のきっかけ】

技術士に、業務で指導を受ける中で技術士試験を受けるように勧められる。しかし、昭和 60 年頃の技術士はビックプロジェクトに参加し、新しい技術開発をしたことで技術士を取得していた。

私は、零細企業に勤める技術者なので取得は絶対にできないと、自分で決めつけていた。そのため、技術士の受験準備や勉強などまったくしていなかった。

平成 12 年にインターネットで 13 年度の試験から第二次試験においては、第一次試験の合格が必須になることを知り、二次試験を受験するか迷ったが優れた業務経歴がなく、一次試験から受験することを決意した。

一次試験受験中に、二次試験に求められる能力について、大きな業績が必要だと思っていたが、業務の大小ではなく「どのように考え、何を実施したのか」が重要視されることを知る。一次試験の合格後、すぐに二次試験受験のために準備を始めた。

【合格後の抱負】

二次試験は、6回受験し平成25年度の試験で、晴れて技術士になることができた。技術士としてはこれからがスタートであり、技術者の義務や責任について履行し、課題を早期に解決できる技術士になりたいと考えている。

そして、自己の資質向上のため、広い人脈づくりをしたいとの思いから技術士会に参加している。

【現在の業務のやりがい】

私は建設部門の技術士であり、公共事業に従事している。国民が、安全で質の高い生活を確保するためには、社会資本整備は不可欠である。そのために、必要な設計を実施することはやりがいのある仕事で、年長いても身が動く限りはこの仕事に従事していきたいと思う。



昨年度の技術士二次試験に合格し、今年の3月に技術士(情報工学部門)になりました西原と申します。自身の技術士受験から技術士合格後の抱負までを紹介させていただきます。

1. 技術の道に入るきっかけ

大学では数学を学んでおり、情報工学の道に入ったのは社会人からとなります。最初にデータベースの設計と構築を経験した後、お客様のシステムを安定・安全に動かすための非機能要件(※1)をシステム基盤で実現する業務にたずさわっております。

※1 地震などの災害が発生した際にもサービスを継続する。など

2. 技術士受験のきっかけ

30歳後半になるまで、情報工学の国家資格を保有していませんでした。そこで、40歳になるまでに何か1つ資格を取得しようと決意し、チャレンジするのであれば「最高峰の国家資格である技術士を目指そう」という気持ちから始めました。また、技術者倫理にも興味があり、技術士受験を通して学んでいきたいとも考えていました。

3. 技術士を受験して良かったこと

技術士一次試験合格後に、修習技術者として千葉県支部や情報工学部会など日本技術士会の行事に参加しておりました。その中で技術的なスキルアップができたことに加えて、情報交換会で同じ情報工学部門の方々、更には他の部門の方々とも交流したことがとても勉強になりました。

4. 合格後の抱負

技術士になることがGoalではなく、技術士として仕事の幅を広げていきたいと考えています。模索中の段階ですが、まずは公益確保の観点として計画・設計の段階から利用者の立場・視点に立った考えを取り込んでいきたいです。また、継続研鑽(CPD)に努めることで専門知識の向上および技術者倫理の修得を行い、将

来的に APEC エンジニアを目指しています。

最後となりますが、技術士試験を合格するまでに、数多くの先輩技術士の方にアドバイスをいただきました。今後は、技術士を目指す方のお手伝いをしていきたいと考えております。

【技術士のお仕事紹介】 技術士資格は取ったけどどんな仕事があるの？ そんな疑問に答えるコーナーです。

技術士のお仕事紹介

この企画は技術士の仕事にはどのようなものがあるのかを紹介することを目的としています。決して独立技術士の仕事が対象という訳ではありません。キャリア設計の参考になるような内容を続けていきたいと考えています。本企画の第1回目は広報委員で編集担当の私、秋元が書かせていただきます。

【補助金申請支援】

中小企業を活性化して、アベノミクスの3本の矢の1つである成長戦略を実現するために昨年からいわゆる「ものづくり補助金」が数回に分けて募集されました。この補助金の特徴は、採択数が非常に多いという点にあります。年度の予算規模が1000億円を超え、採択企業数は1万社を超えます。そのため、これまでは補助金とは無縁であった中小・零細企業にも獲得チャンスが回ってきました。

この補助金申請の支援に技術士の業務チャンスがあります。私自身、この2年間で両手に余る件数の支援を行ってきました。補助金の申請支援は単なる代書屋ではなく、事業計画作成の指導からはじまります。

ここでは紙面の都合もあり、申請書作成のノウハウを少しだけ開示しましょう。

審査は人が行うのですから、審査員の立場に立った申請書作成が必要です。補助金の審査員は必ずしも専門家ではないことを理解しなければなりません。通常は審査項目が開示されています。審査員は申請書から「審査項目の答え」を探しながら採点しますから、審査項目の答えが見つかり易い書き方が必要です。そのため独自の見出し、赤字、太字、下線を徹底活用します。図や写真も多い方が見やすい申請書になります。

例えば審査項目の中に「革新的な開発となっているか」という項目がある場合、申請書の中に小見出し「本事業における試作開発の革新性について」を設けて革新性について説明します。そうすれば審査員は革新性について書かれている部分を見つかります。説明の中で重要なポイントがあれば、赤字等で強調します。

「体制及び技術的能力が備わっているか」という審査項目もあります。中小・零細企業は開発体制・能力が不十分どころが殆んどです。その場合、何が不足しているか、不足している部分を外部の誰に助けてもらって開発するのかを明記し、「当社には不足している機能を補う外部ネットワークが存在する」と赤字で記載して、開発機能が十分備わっていることをアピールします。

また、補助事業終了後の事業化計画も極めて重要です。補助金の目的は開発を支援して成長させることにあり、支出した補助金はいずれ税金で回収する必要があります。ですから、補助金の額に比べて十分に大き

い利益が見込めるという絵を書く必要があります。例えば 5 年後に補助金額の 20 倍の売上を見込むなど。また、それを実現するアプローチ(販売先候補、販売ルート・方法)も必ず明記します。そうすれば必ず高得点が得られます。

補助金の申請支援は県の産業振興センター、公設試、商工会議所等が無償で行っています。一方で中小企業診断士が請求する相場は 1000 万円の補助金で 50 万円程度とのことです。このように大きな開きはありますが、採択率が高い専門家には高い報酬でも捌ききれない依頼が集まります。

技術士の場合、申請の支援で報酬を受け取る他に、開発の具体的指導の業務が発生する可能性もあります(これは中小企業診断士にはできない部分です)。また、補助金の獲得に成功すれば、クライアントが新たなクライアントを連れてきます。このように仕事が循環しはじめると、十分食べていける収入が得られます。皆さんも補助金ハンターを目指しませんか。

(秋元英郎)

【技術士事務所のための知識・情報】 独立予定の有無にかかわらず、実践的で役立つ情報のコーナーです。

【技術士の図書館活用法】

現代は日進月歩で技術革新が進んでいます。一方、技術士は責務として「継続研鑽」が求められ最新技術の勉強も欠かせません。技術士会では CPD 講座を開催して会員各位の継続研鑽の支援をしていますが、毎回、自分の専門分野の新技术・周辺技術にぴったり当てはまらないのではないのでしょうか？

この継続研鑽を行うときに問題になるのが文献、図書の入手です。入手にはお金がかかり、かつ、入手後、本は蔵書として場所をとりますので本の購読に二の足を踏む技術士もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そこでお勧めするのは図書館の活用です。

「何をいうのか、図書館には専門書や最新の技術図書はないのを知らないのか」とおっしゃる技術士もいらっしゃると思います。なければどうするか、必要な本をリクエストをするのです。図書館のシステムを担当した時に聞いた図書館関係者の話によりますと、本をリクエストをする利用者は決まっているそうです。大部分の利用者はリクエストをしないで、図書館にある図書で我慢していますが、リクエストの活用を知っている利用者は繰り返し読みたい図書をリクエストしているのです。そして、図書館はリクエストを歓迎しているのです。

図書館は新聞・雑誌の書評などにより図書を購入するのですが、利用者に読んでもらえる図書なのかは分かりません。また、読んでもらうことを目的に評判の良いベストセラーばかり揃えるのも市民に良質の文化を提供する図書館の趣旨に反します。それに対し、利用者からリクエストされた本は必ず読んでもらえます。図書館側から見ると利用者が必要としている本なのです。

また、我々が顧客から示された納期、仕様を全力で守ることが使命と考えるように、司書教育を受けた図書館の係員は利用者に読みたい本を提供することを使命と考えています。

特殊な専門書であればあるほど、係員は情熱を燃やして探してくれるでしょう。そして特殊であればあるほど、

あなたの他にリクエストした本を読む利用者はいません。図書館はあなたのためだけに本を購入してくれるのです。ただし、購入してくれたお礼に2週間～1ヶ月に一度、図書館に本を持って行き、失くしていませんよと見せて再度借りてきます。このようにいつも手元に置くことができますが、読む機会が減ってきたら図書館に必要なときまで無料で預けておけます。自宅の書棚の貴重なスペースを占有することはありません。

図書館の本ですので、重要箇所には線を引いたりはできませんし、必要頁のみ破るなどということは論外です。しかし、重要箇所を別紙にメモすることはできます。

図書館は本を借りるところでなく、あなたの本を預けるところと考えて、継続研鑽に活用しませんか？

(川畑真一)

【レンタルオフィス活用法】

技術士登録する際には事務所の名称と所在地を届ける必要があります。この場合の「事務所」は勤務先や自宅であってもかまいません。しかしながら、開業して技術士業務を行っていく場合、事務所の形態は非常に重要になります。

独立技術士の事務所形態には、自宅、共同事務所、賃貸事務所、インキュベーションオフィス、レンタルオフィス、シェアオフィス、ノマド等が挙げられます。上記を分類すると、①自宅に机を持つ、②自宅の外に机を持つ、③固定した机を持たないに分類されます。

自宅

自宅を事務所にする Home Office は最も費用がかからず、簡単です。問題は生活と仕事の切り分けがしにくいところにあります。仕事中に家族が家に居る場合は集中できないし、仕事の電話が自宅にかかってくる場合には家族が電話をとる場合も出てきます。お客さん呼びにくいことも問題になります。本気で業務を行うなら、避けるべきパターンでしょう。

自宅外の事務所

自宅外に事務所を持つ場合、書籍・書類等は基本的に事務所に置いて、仕事は事務所で行います。事務所のパターンとして、神奈川県支部のように技術士が複数で共同事務所を持つケースがあります。共同で事務所を持つことで、固定費負担を軽減することができます。

(http://www.engineer.or.jp/c_shibu/kanagawa/topics/002/attached/attach_2996_1.pdf)

貸し事務所は不動産屋から事務所用として部屋を借りる方法です。自分の城ですが、一人では寂しい、固定費負担が大きい等の問題もあります。

インキュベーションオフィスは主に公的機関が運営しており、経営指導等がセットになった事務所です。料金は安いですが、入居の審査は厳しく一定の年数制限があります。

千葉県産業振興センターが運営するベンチャープラザ船橋もインキュベーションオフィスですが、個人事務所が入居するにはやや広すぎるでしょう。

(<http://www.smrj.go.jp/incubation/vpf/>)

民間のレンタルオフィスは、事務所スペースを多くは1～3名スペースの個室に区切って貸し出すサービスで、共通の受付・会議室等を持つ。郵便や宅配便を受け取ってもらえるし、オプション契約すれば不在時の電話応答もしてくれます。

千葉県内のレンタルオフィスの例としては、

幕張ビジネスポート(海浜幕張駅)<http://www.mtg-mbp.co.jp/>

USP(海浜幕張)<http://www.office-usp.jp/equipment/>

リージャス千葉大栄ビル(千葉駅)

<http://www.regus.co.jp/locations/office-space/chiba-chiba-daiei>

Toones 千葉(千葉駅)<http://roffice.toones.jp/>

特に、幕張ビジネスポートは幕張テクノガーデン内、USPはWBGマリブイースト内にあり、環境は抜群です。

机を持たない方法

シェアオフィスとは、複数の人が共同で使えるスペースですが、机は固定しておらず、書類・書籍等は別にロッカー等を借りる方式の事務所です。大都市には多くのシェアオフィスがあります。外来者と打ち合わせるスペース(有料の会議室)もあります。千葉市が運営しているチバラボは起業支援施設であり、インキュベーションオフィスの要素を持ったシェアオフィスです。

(<http://www.chiba-labo.jp/>)

ノマドとは、遊牧民のことですが、ノマドワーカーとは喫茶店(スタバ等)やファーストフード店(マクド等)にパソコンを持ち込んで仕事をする働き方で、インターネットがつながっていればどこでも仕事ができるような業種に多いスタイルです。

おススメは

もし、自宅がレンタルオフィスから遠くないのであればレンタルオフィスを借りることをおすすめします(費用対効果が良い)。

レンタルオフィスには、運営会社によっても異なりますが、受付サービス、デスクチェア・インターネット完備は基本で、新聞閲覧コーナー、リラックスコーナー、給茶器等もあります。

特に大型オフィスビル内のレンタルオフィスは銀行・郵便局・クリニック・薬局・コンビニ・従業員食堂・英会話学校等が揃っており、仕事の効率が上がります。

お客様に来ていただく場合にも、交通アクセスが良いビルであれば、気兼ねせずに呼ぶことができます。

そして何より、自分の技術士事務所のブランディングになります。

一度ご検討されてはいかがでしょうか。

(秋元英郎)

【アクティブ 45+】 仕事以外の分野で若者に負けない活発な活動をしている会員を紹介するコーナーです。

アクティブ 45+

この企画は仕事だけではなく、いろいろな活動をしている技術士を紹介するコーナーです。45歳は「青年委員会」の参加資格が無くなる年齢ですが、青年の心（時として少年の心）を持ち続けることは、仕事の質を高めるためにも重要なことです。

【風になって走る】

「世界が変わりますよ！」注文したロードバイクを受け取りに行った自転車店の店員からそう言われました。サイクルウェアに身を包み、ペダルを踏み込むと体がロードバイクに引っ張られるような感触で、まるでオートバイでアクセルを吹かした時のような感じ。それ以来、ロードバイクの虜となりました。ロードバイクは、ロードレーサーと呼ばれることもあり、一般的には舗装道路で中・長距離を走ることを目的として設計された自転車のことを指します。

私がロードバイクを始めたのは、今から3年前です。60歳を目前にして体力の不安もあり、何か運動しなければと思っていました。会社の同僚にロードバイクに乗っている人がおり、普段からいろいろと話を聞いていたこともあり、ふと自転車専門店を訪れたのがきっかけです。自転車にもロードバイク、クロスバイク、マウンテンバイクなど様々なタイプがあります。最初はクロスバイクを考えていましたが、お店の方のアドバイスもあって、ロードバイクに決め、どうせ買うなら、少々高額ですが、路面の振動を吸収しやすい、カーボンフレームのロードバイクを購入することにしました。

1. 自転車の効用

ここで、自転車の効用について述べてみたいと思います。

(1) 自転車は、構造がシンプルで燃料もいらず、免許や資格も不要で、誰でもいつでも乗りたい時に楽しむことができます。また、車のように騒音や排気ガスは出しませんので、環境に優しく大変エコな乗り物です。

(2) 自転車に乗ることで平衡感覚が養えます。また、ウォーキングでは鍛えられない太ももの筋肉と腸腰筋が鍛えられて、寝たきりになるのを防止できるし、血管も若返ると言われています。

(3) 地上高1mのところを風になって走るという爽快感はたまりません。また、登り坂を上り切った時の爽快感は乗った人でないとわからないかも知れません。NHKの番組でも紹介されていましたが、自転車を漕ぐことで脳内神経伝達物質の一つであるセロトニンが増加して気分爽快になるそうです。セロトニンには精神安定効果があり不快感を鎮める効果があるそうです。そのセロトニンは規則正しいリズム運動で活性化すること。まさに自転車を漕ぐ運動がこれに当たります。しかも太陽光を浴びるとなお良いということです。

(4) ハンドル、タイヤ、サドル、ギヤなど部品を交換して自分好みの自転車仕様にするのができ、乗る楽しみとは別に見る・飾る楽しみもあります。また、サイクルウェアやヘルメットは様々な色やデザインがあり、これに身を包むと気分も変わります。

一方、ロードバイクは、高速で走行する為、市街地や一般道の走行は危険を伴います。ロードバイクのタイヤ幅は23mmくらいで細く、路面の突起や溝には注意を要し、特に引き足を利用する為にシューズをペダルに

固定するビンディングペダルの場合、急にバランスを崩した際に落車して怪我をする恐れがあります。慣れてしまえばなんてことはないのですが、注意が必要です。

2. 佐渡ロングライドへのチャレンジ

仕事の都合もあり、ロードバイクに乗れるのは休日です。日頃は、千葉県内の林道やサイクリングロードを走り、南房総や外房などに行っています。そして、毎年2つ以上の大会に出場することを目標にしています。

今年は、5月に会社の同僚と二人で「佐渡ロングライド(210km)」に挑戦しました。それまでの私の最長走行距離は130kmでしたが、佐渡1周210km(制限時間12時間)のレースということで、果たして完走できるか正直不安でした。しかし、同僚からの誘いもあり、完走してみたいという意識が高まり、挑戦することにしました。

コースは、両津の西、真野湾に面した佐和田から佐渡ヶ島を時計回りに1周するものです。基本的に海岸沿いの道ですので、特有の起伏がありますが、特に傾斜度8~10%の急坂が5カ所設定しており、ここが難関となっています。途中、Z坂や大野亀といったビューポイントがあり、佐渡の絶景を味わいながらの走行を楽しむことができます。2月に申し込んでから日に日に気持ちは高まって行き、直前1か月前からは同僚と茂原経由で大東岬を往復したり、幕張から印旛沼を通り利根川沿いに銚子までを走るなど事前に長距離走行を行って入念に準備を行いました。

そして、いよいよレース、前日に自宅から新幹線とジェットフォイルを乗り継いで佐渡に入り、宿のホテルから足慣らしでトキ保護センターなどを回って約50kmを走行し準備万端、途中、水田で野生のトキに出会うことができました。その夜は緊張であまり眠れず、当日朝は3時起きで簡単に朝食を済ませ、ホテルからスタート地点の佐和田まで20kmを準備運動がてら走り、会場に入りました。

2000人を超える参加者で会場はごった返していましたが予定通り5時30分スタート。当初は雨が降り出しそうな天気でしたが、次第に雲が取れ、快晴になりました。沿道での地元のお年寄りや子供たちの声援は励みになります。100km地点の両津港が昼食場所で予定よりも早く11時前に入ることができました。以外に疲れは感じず、みそ汁とご飯を掻き込み、気持ちを新たに後半のコース、ゴールを目指してペダルを踏み出しました。途中ロードバイクに取り付けているサイクルコンピュータで走行距離を確認し、これが130kmを超えるとこれからは自己最長走行距離の更新だと自分に言い聞かせました。

最後の給水ポイントの手前の急坂はさすがに疲れも出てきて、途中で止まってしまいましたが、そこをクリアしてよいよラストスパート、左手には真っ青な日本海と雲一つない空が広がって気分も最高でした。ゴールでは一人一人の名前を呼ばれ、拳を上げてゴール。完走証を受け取った時は210km走り切ったという感激と達成感で一杯でした。帰りは夕暮れの水田の中をホテルまで走りましたが、前日に出会ったトキには遭遇できませんでした。

今年は、あと2大会にエントリーしています。いつまで続けられる



かわかりませんが、いつまでもロードバイクで爽快感を味わいながら風になって健康維持に努めたいと思います。(写真は、佐渡の巨岩・大野亀付近を走行する筆者)

(今住則之)

【編集後記】

千葉県支部として初めての会報を会員のご協力で発行することができました。ここに、執筆者に厚くお礼申し上げます。

この会報は千葉県支部の正会員・準会員諸氏に千葉県支部の活動および活動に参加している会員をより知っていただき、活動に参加するきっかけになることを願っています。今回は特に5月の合格者祝賀会に参加された第一次試験・第二次試験の合格者に寄稿をお願いしました。千葉県支部の新しいメンバーとなる方々です。

この会報についてご意見を chiba●engineer.or.jp までお寄せください。

(※迷惑メール防止のために「@」を「●」に換えて掲載しています。ご連絡の際は、「●」を「@」に書き換えて送信してください。)

(川畑真一)

日本技術士会千葉県支部会報 Vol.1 (2014)

編集人 日本技術士会千葉県支部広報委員会

委員長 川畑真一

発行人 支部長 松井隆

発行日 2014年12月15日

発行所 公益社団法人 日本技術士会千葉県支部

〒260-0013 千葉市中央区中央 2-7-10 シャンボール千葉中央 2階 206号